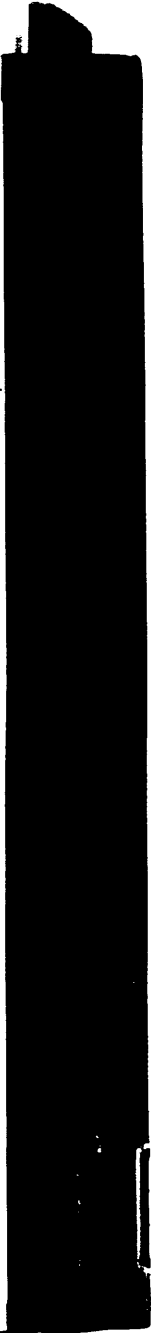
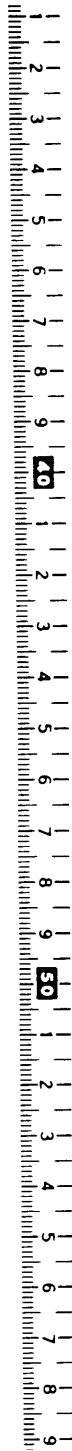


電子複写不可

沖縄方面帰還報告

③
本土
15

防衛省
資料



番号 資料 内容

- 1 冲縄直下隊小隊報告 (22年6月4日)
- 2 石垣島1751空隊副長報告
- 3 大島防衛隊 22輜送隊 情况報告
- 4 石垣島西901航空隊3A隊報告
- 5 22年 现状
- 6 9F各隊 高橋三郎 報告
- 7 玉碎地区 野天認定資料
- 8 南東方面 從軍手記 (22年7-23日)

海軍省
海軍部
海軍省
海軍部

昭和二十年十二月

沖繩海上特攻隊ニ関スル報告

白濱風紀衛長

福士大尉

63
21 7月31

海軍

捷子作戦以後海上特攻隊作戦に到ル間、第二艦隊

捷子作戦以後、第二艦隊、大部内地に取返せられ、巡洋艦隊主力ヲ失ヒ、且戦艦隊、在リテモ僅ニ在内地ニ留マレ、数ナルノミニシテ、昔日、艦隊再ビ見ル能ハズ。加之、燃料問題、深刻ナルアリテ、

二十年一月、到ルヤニ艦隊トシテ、柱島泊地ニ碇泊シ、在ルハ大和、矢矧、及1700噸、駆逐艦五隻ニ過ギス。ニ艦隊トハ言フモノ、單ナル一々

水戦ニモ考ル状況ヲ呈スルニ到リ。

二月中旬、48f、23d、昭南ヨリ取返シ、43f、同々ナリ、掃艦ニ編入セラル。

23d、2f、十合同、此、際、於ケル、23d、ハ捷子作戦ニ於ケル、15d、23d、

10d、残部ヲ掃キ集メタルモノニシテ、17d、21d、ヨリ掃出セラレタリ。

三月上旬、31d、2fニ編入セラル。

五月十九日、米艦、吳淞港附近ニ碇スル攻撃アリ、當時、十艘ハ碇泊シ、

1d、21d、ハ柱島ニ碇泊中、攻撃ヲ受ケタルヲ被撃ヨリシ、2fニ集結セ

北、約セ。和 攻撃ハ主ニ大和ニ集中サレタリ。戦果ナシ。
 後日本日、戦斗ニ対シ研究令ヲ閉塞ケレシモ 防空戦斗ニ対
 シ何等、成案モナク唯ヨリ一層、陸訓練ヲ要望セラルルミナリ
 好、即主砲ハ防空射撃ニ対シ余リニモ粗末ニシテ 防空駆逐
 艦ハトモカク、丁型dニ於テハソノ四式射撃装置ハ極メテ精度
 不良、特型以降、dニ於テ防空射撃ニハ全量射撃ヲ使用スル、
 己ニナラズ状況、又 25 Mg ハ各dトモ單管ニハ余リ甚行有セリ
 且特管 Mgニ在リテモ 後動照準器ヨリ有ヤサル結果、射撃効果
 發揮ニハ尙前途遠シルモノトナリ。昨日、戦斗ニ於テ最モ
 活躍スベキ大和ニ於テスラ目撃マシキ戦果ヲ擧ケ得ズ、特ニ、戦斗
 ニ多大ノ危害ヲ被カサルヲ得サリニ。

防空戦斗中、輪型陣ハ概テ15乃至20ノ半径、使用、コトニ要
 議決セラル。

海軍

諸訓練ハ特ニ防空戰斗ニ重キヲ置キ尚夜間戰斗電測
 射擊電測發射第一斜進魚雷ノ利用ハ水測訓練並ニモ
 重視セラレタリ 2F 内地段校后發備ノ新兵器四次ノ如シ

三式探信儀

「フラス」管利用モノ

四式輪轉水平儀

電測射擊用

三式測的盤

電測發射用

第二斜進魚雷

測定距離駛走后柱用スルモノ

打波用電波探知器

打波電探用「クリスタルレバー」

三月ニ於ケル
2Fニ於ケル燃料
消耗状況
行動用平常用合計

B.C ←

12^{xt}

1.5

昼夜分

(記憶正確ナラス
概略数字ナリ)

d

12^{xt}

2 昼夜分

一月中旬に於ける干船隊編成

<p>干船</p> <p>(注) 大和</p>		
<p>23d</p> <p>(注) 大和</p>		<p>13f</p> <p>大和</p>
<p>朝雨相</p> <p>初雨相</p>	<p>冬月</p> <p>涼風</p> <p>雪風</p>	<p>天城</p> <p>(注) 在島</p> <p>葛城</p>

三月下旬に於ける2年隊編成

2年 P 大和				
313		23d P 天 231		
丁型 d x ? 約10 防空d x 2	4dg	2dg	17dg	7dg
	冬月、涼月	朝霜、初霜	磯風、雪風、黄風	響音、雨霞

海軍?

沖繩海上特攻隊作戦経過概要

記

26日

沖繩ヨリ米軍慶良間列島ニ上陸ナル可電アリ
24日 米軍集結戦備ヲ整フ

28日

27日(天和 23日) 米軍 豊後水道ヨリ大東大隅海峡ヲ経テ佐世保ニ同航待機セシメル
予定ニシテ高本回航ニ依リ米KABヲ近海誘ハシシ
痛撃ヲ與ヘテ企圖サルモノ如シ

29日

豊後水道ヨリ大東大隅海峡ヲ経テ佐世保ニ同航待機セシメル
0100 豊後水道ヨリ大東大隅海峡ヲ経テ佐世保ニ同航待機セシメル

0700 伊豫灘ニ於テ小型機十数機四回上空ヲ巡回中ナルヲ察ス

41kg 射撃開始。状況認識。為343空、紫電ヲクラマント
 思ハテ發砲セルモノナリ。此、為紫電上機墜落、20ナキニ到ル
 射撃開始。某空母島水道南西五里附近
 後刻本事件。聞ハ343空司令ヲ好ム。27。抗撃アリタリ
 防衛隊同航中止。射撃同様訓練ヲ実施シテ、早部沖ニ
 到リ、假泊予定。某和口艦隊。訓練馬輪形陣ヲ制ル(半徑1.5
 周防灘。於テ射撃。投擲ヲ文テタルニ被官ナシ
 早部沖。於テ入港直前響音磁氣探雷。觸。航行不能トナル
 艦隊。急遽支那錨地ヲ防衛隊ニ変更ス。朝霜ヲミテ響音ヲ見
 早部向航セシム
 780 防府ヲ入港
 朝霜合同
 此、日以後連日。82。艦隊上空ヲ飛行スルアリ。

海軍

27日 昼間 17時 20分 係機 程度、概 固 待 機、
夜泊 7時 17分

米軍 北 飛行場 占領 四月初旬、主ルヤ 北 飛行場ヨリ 米機、
ヲ見ルニ 到レリ

研ヨリ 四月五日ヲ 期シ 沖繩 及 周辺、米軍ニ 討ニ 航空 總攻 車ヲ
決行 スルキ 旨 電アリ

都合ニ 依リ 五日、總攻 車ヲ 六日ニ 延期 セラル

GF 北ヨリ 27日 討ニ 海上 特攻 隊 編成ニ 關スル 電報アリ
此レニ 依リ 大和 天烈 4機 17機 ヨリ 編成 ナレシ 由ナリ

(駆逐 艦ニ 關シ 電報ニ 討スル 暗号 書テ 飛 誤 不能 ナリキ)

5
1600
315
各艦より大和を巡り
燃料を討て燃料を移載し
固めたる

6
0600
2F
2F 空母沖去港 徳山を同航 大和を巡り各艦に燃料を満載す

朝霧 初霧 霞段ハ本日 23d ト行動を共ニスルコトニ決定セラレタリ
各艦ハ徳山燃料廠ニ秘密回書シ此ノ下要物件ヲ陸揚尚
新東艦中ナリシ各艦少尉候補生ヲ退艦セシメタリ

「長官ヨリ方ノ訓示アリ」
「茲ニ海上特攻隊ヲ以テ壯烈無比ノ突入作戦ヲ決行スルニ
至レルハ帝國海上部隊ノ伝統ヲ發揚スルニ共ニシテ其ノ
ヲ後昆ニ伝ヘントスルモノナリ 各隊殊死奮戦敵艦隊ヲ
全滅スベシ」

27 徳山本港 徳山湾外ニ於テ 313 ト令離 318 ハ 1124 P

指揮下ニ入リタリ

最初研ヨリ、命令ニ依レハ七日早朝豊後水道ニ出テ八日

黎明時嘉手納那覇沖ニ米船團ニ突入予定ナリトモ新

スハ速カ、閣下上都合要ク、二日午後徳山本港ノコトナリ

伊豫難ニ於テ士和ニ計ニ 22d 諸軍教練ヲ行フ

豊後水道 由掃海水道ニ入ル (前路掃海ナリ)

掃海水道通過

海上警戒の序列ニ占位 速カ? 20

夜間米潜水艦ニ發見サレシ如キ徴候アリタリ

7 大隅海峡通過

0700 0600 210 = 変針

輪形陣 (半隊) 制形后一路南下ス 24

海軍

7
 423. 1200 2 1130 3900 4300. 4730.
 東方ニ未だ二機北上中ナルヲ發見
 5A 零戦約二機ニ依ル上空哨戒開始セシムル
 本哨戒ハ1100頃迄続行セラレタリ
 当日天候風波静穏ナルモ雲多ク終日満天雲ニ蔽ハル
 朝霧村機故障輪形陣ヨリ落伍ス
 1130 東方約二ノヲ未だPBM 一機觸接中ナルヲ發見
 向メナク奄美大島監視哨ヨリ「小型機約二五。村北上中」
 ナル電報アリ
 1200 15号電探ニ依リ約100km附近ニ大編隊ヲ探知ス
 討空戦開始
 当日ハ雲量多カリシ為戦斗頗ル困難ヲ極メタリ 即ハ千

海軍

米村ハ雲間ニ隠顯スル爲 照準ヲ指定セシレ又別距離ル因難
 彈着観測ハ全ク不能ノ狀況ナリキ 且雲高依カリシ爲
 仰角如キハ目標捕捉セル時ニハ既ニ爆彈投下後ナル如キ
 現象ヲ呈セリ
 朝霧ハ當時24ノ北方水平線附近ニ播キニ視認シ得タリ
 尚朝霧上空ニ米村及討空射撃彈幕ヲ認メタリ
 浪風後部・爆彈命中 後甲投メスレ上リ推進軸ハ
 吹キ飛ビ暫時ニシテ行脚停止ス 引キ続キ船ヨリ無雷
 ニ番機前部ニ命中 船ハ左舷ニ傾斜沈没セリ
 地點喜界島西方約三〇海里
 波間ヨリ大和轟沈 一大火柱ヲ望見ス
 此頃迄ニ三四百枚未爆セルモノ如シ

海軍 10

浪風乗員、²⁰⁰名宛一群トナリ漂流中、数回米糎、持統
掃射ヲ受ケ、若干、戦死者ヲホセリ

？ 矢矧沈没

？ 霞 航行不能トナリシ為、乗員、冬日ニ移来、冬日、奥雷ニヨリ
凌分ス

？ 涼月 船首大破セシ為、後進ニテ、戦場ヨリ避退
磯風 浸水、為、航行困難トナリ、速カク、北方ニ避退

1700?

冬月、雪風、初霜ニ懸ニテ、遭難者救助ヲ開始
此レヨリ先、司令ニ対シ、GFヨリ、遭難者ヲ救助シ、信ヲ保ニ
般投スベシト電報アリ

200

磯國ハ鹿兒島ノ入港スベク極力努力セルモ遂ニ航行不能トナリ乗員ヲ雪風ニ移乗セシメ處分ス 最初雪風要密一ヲ發射セルモ艦底通過セル為砲臺・依リ裏沈ス

0700

冬月 雪風 初霜 佐世保入港

1100

涼月 佐世保入港

海上特攻隊ノ戦ヲ顧ミテ

本作戦ハ大膽ヲ敵ト言フベキヨリハ寧ロ無謀ニ近シ 當時
 沖繩全海域ニ米國ノ制空權下ニナリ 而シテ味方航空部隊
 ニ依ル戦果殆ントナキ以前ニ由來セル結果圧倒的多数
 ノ米機ノ攻襲ニ曝カレシ結果大和以下ノ被害ヲ生セルハ
 當然ノ敗績トモ言フベキモノナリキ 乍然艦隊ハ瀬戸内ニ
 碇付セリトスルニ尚所詮沈ムベキ運命ニナリ 我々艦隊乗員
 トシテハ「フリート・イン・ヒート」トシテ自滅ノ道ヲ辿ラシヨリハ華々
 シク戰場ニ出テ斬平死地ニ突入 敵船團ト苦達フルヲ本望
 トセリ 本作戦ニ是非ニ就キテハ何等ノ不平ヲ滿ト言フベキモノハ
 ナシ 唯突入時ヲ 空挺隊使用後ニ撰次シタラシムハ所
 期ニ戦果ヲ擧ゲ得タルベシ

四月七日、戦斗ニ於ケル米村ノ攻東ハ極メテ見事ナリキ
 雷爆東ノ協同頗ル緊密ニシテ高ソノ雷東ハ急降下ニテ
 近迫シ^m200? 附近ノ高度ニテ發射セルガ如ク回避困難ナリキ
 又雲ヲ巧ニ利用シ以テ我が射東ヲ困難オレンメタリ 東ニ
 日本艦隊ニ対空射東用電探ヲ裝滿シアラス 其日ノ
 如ク實多キ時ハ有効ナル射東ハ全然不可能ト言フモ
 過言ナラス 米村ノ受ケタル被害ハ甚クトナリシ如シ

沖繩洋戦ニ於テ最初米軍慶良間島ニ上陸スル迄日本ハ米軍
 輸送船團ノ衝向ニ對シ偵察不充分ナリ 三月二〇日前後
 ニ於ケル四五南方ノ村動部隊攻東ハ勢中トナリ島ニ沖繩
 方面ニ對スル手配不充分ナリシモト推察セラル

海軍 15

石垣島整備隊員令井上吉彦大佐
及副長井上勝太郎大尉の進報告

昭和十九年一月三日史胡、經了聴取

一、在職期間

昭和十九年八月五日沖根階へ發令せらるる十九年九月現地着

見合ハ右より若干進レ上青土着任ス

二、整備進捗情况

①副長着任后整備用兵力（昭和十九年九月）

兵力約 〇〇名（主として土木班員、主として北、短工班員）

②土木班員、石垣島整備隊編成ス

③土木班員、土木着任后整備用兵力

計約 〇〇名（内石垣島隊員 〇〇名、沖根階 〇〇名、南島班員 〇〇名）

3.

四 自然恩恵

各種事情不良に於ては、より多量の穀物は、○○名中一二〇名程迄
与。

傳來移る運送に於ては、主程に於て回却せず、現地製作を減らしては、
なまらぬ。

五 陸軍関係

防軍方針樹立の際迄、尙日方が陸軍の全部中、一六〇、千名
上陸に向へ、少軍強者せしめたり。

六 島民ノ意

人口六〇〇、移る非協力的なり。自己を救ふ為、仲名ニテ政例ニ好意
ヲ寄るものニハ、アツルカク、総戦後、未ノ意ハ、桂樹的ニ救済セントス
亦カ、ヲ射取ルヤ、情勢トナリ。

(一)



大島防機密第一ノ號、一二月 二日迄

大島防備隊
第十二輸送隊

任務報

一、戦闘經過概要

昭和二十年三月中旬迄、專ニ大東島方面ニ對スル輸送任務並ニ「カ」
 「タカ」船團、護衛及其、中継其任務ヲ主トセシメ、護衛船艇又
 輸送船ハ荒天航海及敵潜水艦航空機ニヨリ被害ニヨリ次第ニ減
 シ加、ルニ空襲激化シ三月下旬以降、輸送任務、断念スル、止ムナキニ
 成リ大島方面モ亦内地ト交通杜絶シ全ク孤立セリ。
 敵航空機、攻撃目標、最初、船艇ニアリタルモ船艇殆クハ撃沈セシ
 ヲ、又攻撃目標ニ陸上施設、砲台並ニ民家ニ指向シ終戰迄空襲
 ナキ日、殆クナカリキ

當隊ハ四月以降、航空戦ニ全カニ注ギ陸上諸施設又物資、被害
 極減ニ努ムルト同時ニ、対揚陸戦ニ備、陸戦隊、編制、強化シ

本際防禦ノ増強ニ陸戰陣地ニ整備シ六月末ヨリテ河揚陸戰準備ハ。ノ完成セリ又南洋隊蚊龍隊ノ整備訓練モ着々実効ヲ得テ終戦當時ノ練度莫高ニ達セリ

二、戦果

敵航空機撃墜数

確定

六四機

不確定

三七機

三、被害

一人負

昭和十八年十月ハ敵航空機潜水艦ニヨリ戦死戦傷死及戦病死亡ノ通

七島防備隊

一三一石

第三二輸送隊

七〇石

一) 兵器

陸上裝備、兵器ニテ使用不能ニ歸リタルモノ、僅少ナリ

(三) 船艇

擊沈或、大損傷ヲ受テタルモノ、約一〇、パーセント

四) 陸上諸施設

約九〇、パーセント、破壊

五) 軍需品

約一〇、パーセント、損失

四) 俘虜

一時収容セル者三百ナリ

一月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、翌日、翌

年、運ニシテ内地ニ送還セリ

二月、三月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、翌日、翌

ニシテ當時荒天ナリルガ故、空襲下ニ於テ危險ニ肩ニ救助セ
ル者ナリ

其中一否、後日航空便ニ依リ内地ニ送還シ他、一否、赤前等送
還機ニ夫レ七月下旬死ニシキ其遺骨、内地ニ送還セリ

右二否ニ收容中、空襲激シノ適當ナル防空收容所ナリ保護、

五大ナル努力ヲ拂、リ又隊、音信設備、全部螺旋サレ隊員、飲

食ハズ、生活ニナセル情況ナリ、彼等、満足ナル生活ニ享ビ得ル

リレハ論ナリ

彼等ノ救助セラル事ニ計ニ大ニ感謝スルキモト認メ

五、終戦處理

一、終戦當時情況

終戦大詔ニ拜スルノ直理、流言ノ中心、動搖、北ノリ、北ノ極
メテ嚴重ニ我ノ態ニ絶計ナキニシタリ

(二) 於戰意理

八月下旬神純米軍ヨリ来リテ攻撃ヲ武器ノ意亦開始シ九月上旬終リテ此間米軍極クテ能率的ナル執務ト當方誠意アル協カトニヨリ何等ノ支障ナク迅速ニ意理完了セリ

右以外丹波軍需品、米軍ノ指示ニ從ヒ逐次支應長範無償ニ拵下ニ總員司場迄ニ完了セリ但シ支應ニ於ケル拵下製品意理ニ関シハ遺憾莫アリ

六、復員ノ状況

八月中旬復員ニ関スル中央指下ハ明確ヲ缺キタル事判断シ苦シムル七箇方面糧食運道ノ情况ニ鑑ミ速ニ復員セシメトシ有ユルモ概ニ講セリ然ル處復員ニ関シ米軍統制漸ク強止シ十月以降ノ一兵ト雖モ米軍許可ナクテ内地送還不能トナレリ而シテ十二月二十五日ヲ最後トシ陸海軍一兵モ残サズ總員司場迄了セリ

七、
氏 情 況

戰闘中、加計呂麻島ニ関シテ限リ兵防衛ニ関シ極メテ有効適切ニ指導シ民モ亦熱心ニ協カレ所謂軍民一致防衛ノ任ニ當リ
從ツテ終戰處理ニ入りテモ概ネ順調ニ経過セリ

然レドモ北緯三十度以南ガ沖繩米軍ニ屬シ大島郡ノ領土問題ニ
ニキ米側ノ意志明確ナラサル等注民ハ不安ノ念ニ駆ニレ人心動搖
レニナリ

一、
所 見

記録ニ残シ差支ナキモ 記述ベシ

(一) 沖根 編制 (組織) 内容ハ根拠地隊ニモアラハズ特別根
拠地隊ニモアラハズ極言スルニ寄合世帯ナリ斯クテハ戦場ニ
レ事當然ナリ

(二) 四月大島方面ニ於テ戰指揮官及幕僚一名主任官一名配
シ

此ノ陣容ニテ、當方面ノ作戰司令部トシテハ入りニモ實効ニシテ作戰司令部トシテ來ノ機能ヲ發揮シ得ズ

(三) 當隊ノ砲台構築ノ開始セル時ハ既ニ米軍ノ揚陸作戰方式ヲ概シテ窺知シ得タル筈ナリ然ルニ其ノ砲台構築ノ様式ニハ何等ノ新工夫ノ跡見エズ實戰ニ於テハ本日ノ戰訓ハ直ニ明日ニ取リ入ルルニ肝要ナリ

(四) 戰鬪ニ於テノ思想ノ統一ノ必要トスル事言ヲ俟タズ殊ニ自腦部ニ於テ然リ故ニ幕僚ニハ半學生出身トク或ハ單ニ頭腦明晰トク言フ人物ヨリモ其ノ道ニ豊富ナル經驗ヲ有シ且識見ナル人物ヲ充當スルヲ要ス

(五) 實戰ニテリテノ消極的ナル人物ハ却テ害毒ヲ及ボス

(終)

五

昭和二十二年十一月二十四日

一

監

本

有

上

元元山港地九〇一就空設成建設分設長
海軍大尉橋本純一郎氏處通報書
(時史實班第五号專宣)

記註者 千 華 浩 一

(多田良雄少将) 海軍大尉 藤田一 海軍大尉 山崎大 海軍大尉 山崎大 海軍大尉 山崎大

昭和二十二年十一月二十四日

元九〇一航空隊元山派遣隊分隊長
海軍大尉 畑垣一 氏 遺囑報告

昭和二十二年十一月二十四日 陸史實班

記 註 者 千 草 浩 一

「對ソ作戰」

對ソ作戰は八月九日未明ソ聯機隊の北朝鮮各地爆撃を以て開始せられた。日本軍は中央の指令に依り積極的攻勢を行はず消極的防衛作戰を實施す、元山口には元山空及び九〇一空が展開し昏りたるも中央の指令に基き北朝鮮東部の素敵を連日實施す。續對ソ明戦當時の九〇一空兵力は東海一式各十機程度にして八月十二日釜山より零戦八(九)機進出せり。又東海に依る日本海の對潜警戒は實施不能となり東海の可動全兵力

又、海軍に送る日本海軍の機雷艇及び潜水艦不詳とされ、海軍の巨艦金剛は
 二日釜山に到着し、(大)砲艦出陣。
 海軍の機雷艇の隊は〇一隊及び海軍第一隊各十隻出陣して八月十
 中央の命令に基き、北朝鮮軍の海軍を数日監視す
 朝鮮軍の機雷艇十隻、釜山にあり、釜山にあり、〇一隊は海軍にあり、
 釜山にあり。日本海軍の中央の命令に基き、海軍の機雷艇十隻、釜山にあり、
 釜山にあり。八月十日、日本海軍の機雷艇十隻、釜山にあり、釜山にあり、
 釜山にあり。

昭和二十二年十一月二十四日 海軍省

海軍省海軍部第一部長官 海軍省
 海軍省第一部長官 海軍省

は十四日内地に後退す
 又八月十五日移設迄の對ソ戦況に依る航空機の損害は僅少にして九
 大陸攻一機が夜間山岳にぶつかり墜落せるのみなり
 猶此の期間に於けるソ聯機使用機は、二九の如き四機機はその姿
 を見ず、銀河程度の双機機が機雷艇の主力にして戦況も著進程度に
 して、資糧機等は無し
 又ソ聯陸軍の兵器は日本陸軍に比すれば相當優秀なるもその殆んど
 が米糧穀のものなり、食料も殆ど米穀のものを食用せる模様なり。
 二移設以後の行動
 八月十五日移設を電報に依り知るも、信ぜず戦況の元實に全力を盡す
 十七(八)日九〇一空航空隊、釜山に來り、銀河を降進し併せて輕
 空動を降に成りたる
 海軍方面の海軍部隊は元山後援地は司令官之を指揮し、島城半島の防

奉天方面の

ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ

ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ
ハ、陸軍部は陸軍部第二〇〇部、海軍部は海軍部第一〇〇部をそれぞれ

九月初旬一〇〇〇名位の作業大隊を構成海軍三ヶ大隊を作る、残れ
る海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す
海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す
海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す
海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す
海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す
海軍部隊は陸軍部隊と合同大隊を構成す

カノ人難西の海軍行の事

カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。

カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。

カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。

カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。カノ人難西の海軍行の事。

二十二年「スーチャン」地帯に集結を結ばれ九四地に集結した五〇名中佐員以上及び憲兵88名を捕し送り金部は九月二十六日「スーチャン」彼で内地に送るれ十月十六日十八日神島に上陸せり猶ソ強押留中に於ける日本軍の犠牲者は相續戦にのぼり死亡せるもの及病氣となつたものは大体二〇一三〇もの高率であつた。

入移戦以前に於ける九〇一空の作戦状況

昭和十八年十二月rd四八艘。四八艘を以て編成せられ十九年三日乃至四月迄公船防護(内南洋方面護衛)作戦を既黄島、サイパン、館山を基地として行つた、十九年四月在館山の。は各四八艘宛大村、沖波、マニラに展開本家は六月初旬rd東港。高城に進出した。そして大村、沖波、臺灣、マニラ、ボルネオを編ぶ線の護衛及討藩掃蕩に従事した。一部兵力「ボルネオ」「マニラ」に展開す

館山 110, 12 (補給基地) 大村 110 rd 沖波 110

面々の表紙を。

海軍部第十、出陣特設空隊の移下を、¹¹⁰の空軍は田中少将入隊に、¹¹¹は十月十日の海軍特設空隊の移下を、¹¹²海軍部の空軍部は「主」の空軍部を「主」の空軍部に移下した。

の空軍部の移下を、¹¹³の空軍部は「主」の空軍部に移下した。六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。

六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。

六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。六月二十一日、二十二日の空軍部は「主」の空軍部に移下した。

十二月一日九〇三空機成せられ九〇一空は沖縄以南の新編護衛隊海軍部を擔當す機九五三、九五四の本領及遺支隊隊附屬及び香港、青島候機隊隊附屬の飛行隊は九〇一空に合併せられた。

二〇年二月末本隊は高雄東港より上海に轉進し昭南より支那沿岸を経て内地に到る航路の護衛に任ず

二〇年四月神戶襲撃も時を過し五月中旬九〇一空の受持もは朝鮮海峽日本海に變更本隊は舞鶴に一隊の成遣隊は青島、旅順、龍津、元山釜山、威海等に配された。

露天襲撃には九〇一空は、敵が夜間攻撃の照明隊として参加したの本である

六月、七月に佐伯空軍海が九〇一空に編入せられ対潜掃蕩に協力せ

(稻垣氏住所 東京都豊島区金杉一ノ一ノ五)

第二十二特別根據地敵戰團狀況

成 成 成 兵 力

昭和十七年三月十日第二根兵力ヲ基幹トシ「パリックババン」ニ於テ

成

兵 力 司令部（舊二根兵力） 第二防備隊 吳二特隊

昭和二十年六月ニ到ル間敵大規模ニ對スル防空戰團ノ外戰團ナレ

昭和二十年六月中旬ニ於ケル兵力配備

パリックババン地區 二二特機司令部、第二警備隊（二ヶ大隊） 第二防備隊

一〇二燃料廠

（外ニ陸軍 四四三大隊）

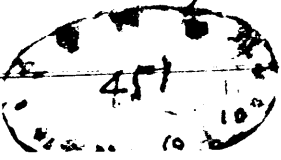
第二港務部

戰團兵力 約一万

タラカン地區

第二警備隊 偵察隊（兵力 香森中佐指揮一ヶ大隊）

（外ニ陸軍一ヶ大隊）



サマリン地区
ボシチャナク
二二特根派遣隊（約二五〇名）

■ 戦況

(1) 戦況概況

(1) 作戦方針

(1) 第二警備隊が陸上戦場ノ基幹兵力トシ第二防備隊其他ノ部隊中陸戦轉換可能兵力ヲ以テ陸戦部隊ニ補充強シ、水際ニ於テ敵兵力ヲ極力駆散スルノ方針ヲ採ツタ（兵力合計 海軍四ヶ大隊、陸軍一ヶ大隊）

(2) 六月上旬以來敵ノ空襲激化シ六月中旬敵ノ砲撃射撃ヲ受ケ水際ニ於ケル戦況不利ナルヲ感シ「サマリンド」道約五軒ノ密林地帯ニ主陣地ヲ構築、敵ニ大ナル出血ヲ強要スルノ方策ヲ採ツタ

(2) 戦況経過

(1) 六月十五日敵機動部隊ノ大空襲ヲ受ケ續イテ砲撃射撃ヲウケ

防線陣地ニ據リ徹烈ナル戦闘ヲ交フ彼我共ニ相當ノ損害アリ戦線縮少ノ爲「サマリンダ」道約十杆ノ地區ニ轉進セリ

七月九日ヨリ接敵、戦車ヲ仲フ約三、〇〇〇ト交戦ヲ續ケ七月二十二日更ニ同道四二杆ニ轉進セリ、爾後交戦スルロトナク、更ニ五八杆ノ地區ヲ經テ「マハカム」河流域「ロアビアナン」ニ轉進シ漸次「サマリンダ」地區ニ移動シ同所ヲ中心トシテ交戦スル目的ヲ以テ戦線整理中移戦トナレリ

(8) 第二防備隊(陸軍師入部隊ヲ除ク)竝ニ第二港務部ハ七月四日未明小舟艇ヲ以テ敵船團ヲ魚雷攻撃シ其ノ三隻ヲ沈没セシメタルモ七月十九日敵航空機ノ攻撃ヲ受ケ其大部ヲ失ヒ戦力ヲ喪失セルヲ以テ七月二十三日「バマルアン」ニ集結、八月七日同機「スパーター」轉進、其大部ハ第一〇二燃料廠兵力ニ合同、同地ニ於テ移戦トナレリ。

(4) 〇ニ... 務務隊ヲ編成、第二警備隊ノ指揮下ニ「スモイ」「スバーク」地
區防衛ニ任ジテ、直接交戦スルコトナク終戦ニ到ツテ

(5) 右戦團ニ於ケル戦果はニ被害
戦果 敵艦撃沈四 輸送船、掃海艇撃沈四 人員殺傷四、〇〇〇
被害 戦死 一五〇〇

戦病死 (主トシテ掃海艇上ニ於ケルマラリヤ死) 一〇〇〇

(4) マラカン地

(1) 敵ノ反攻ニ備ヘ所在軍人軍屬總員ヲ以テ陸戦部隊ヲ編成シ半永久的
戦線陣地ヲ構築セリ

(2) 昭和二十年四月二十七日敵掃海艇ニ上陸船團出現、二十八日艦砲射
撃ヲ行ヒ上陸豫備行動ヲ開始、四月二十九日晝間一帯先鋒兵團ノ上
陸ヲ開始、二十九日、三十日日本上陸ヲ開始シ五月一日以降本格的戦
闘ヲ開始、五月五日及十日兵力損耗ノ状況ニ應ジ一帯戦線ノ縮少整

南洋
南洋
南洋

理ヲ行ヒ爾後六月五日迄本陣地ニ據リ戰闘ヲ續ク
此ノ間敵ニ與ヘタル損害二五〇〇 船隻沈没五 我方被害 戦死行方
不明約一五〇〇

六月五日頃以後各隊毎ニ警報戰ヲ行ヘリ。七月上旬以後食糧缺乏レ
相當困難ナル狀況ヲ來レ之ノ狀況ノ轉移戰ニ至ツタ

③「タラカン」所在ノ一〇二燃料廠支隊隊員及第二警備隊民政隊員・
「タラカン」ヲ脱出、約二〇〇名ハ途中俘虜トナリ終戦後「マハカ

ム」ニ於テ合同セリ

④「ギンチャナク」地區

移戦ニ至ル迄陸上戦闘ナレ

目次

高橋 公三郎 大佐

一 艦隊ノ編成並ニ進出

二 司令部「ウエワ」ヨリ「ホーランヂヤ」移駐迄

三 司令部「ホーランヂヤ」移駐

四 「ホーランヂヤ」戦闘

(イ) 戦闘前ノ状況

(ロ) 敵情

(ニ) 友軍ノ情況

1. 海軍

2. 陸軍

A 第十八軍

B 飛行第六師團 (軍小軍指揮官)

C 「ホーランヂヤ」ニ於ケル配備

(三) 戦闘直前ニ於ケル第九艦隊ノ配備

1. 一般配備

2. ホーランドヤ、附近ノ配備

(四) 戦闘ノ情況

五、ホーランドヤ、戦闘関係員爾後ノ情況

(イ) 艦隊司令部関係

(一) 司令部

(二) 和田、高橋、尺長、三参謀

(三) 田島大尉

(四) 第九十警備隊

(イ) 第八海軍建設部

(ニ) 各地派遣員

六、サルミ、現地自活情況

七、第二十六海軍建設部「サルミ」残留員ノ情況

八、サルミ、地区引揚情況

(終)

一、艦隊ノ編成並ニ、ニエギニア進出

昭和十八年十月十五日 當時第八艦隊所屬トシテ東部

「ニエギニア」方面ニ在リシ第七根拠地隊及第二特別根拠地

隊ヲ主体トシテ編成セラル

長官一行ハ「ラポール」ヨリ「シホ」マジンヲ經テ十一月末「ウエワク」

ニ着任ス

二、艦隊司令部「ウエワク」ヨリ「ホーランドヤ」移駐迄

當時東部「ニエギニア」ニ在リシ第十八軍及第四航空軍ト協

同作戰シ第七根拠地隊、第二十師團、第四十一師團、マジン

ビル海峡方面ヨリ「ウエワク」方面ヘノ轉進作戰及「ウエワク」

「ホーランドヤ」方面へノ補給作戦ニ任ズ
前記諸部隊ハ三月下旬迄ニ其ノ八割ハ「マジン」方面ニ到着
セルモ「セビツク」河口ノ隘路ニ沮マレテ「ウエワク」集結ハ至難
ノ情況ナリキ

三、「ホーランドヤ」移駐

三月初頭第九艦隊ノ担任地域ハ五月一日附ヲ以テ「ニエギニア」
北岸一帯ニ「ハルマヘラ」迄加ヘラル、首ノ内示ニ接シ司令部ハ準
備完了次第「マノクワリ」ニ移駐ノ計畫ヲ立テ四月十日先ツ
「ホーランドヤ」ニ移駐ス

四、「ホーランドヤ」戦開

(1) 戦開前ノ情況

「ニエギニア」ニ於ケル敵ハ逐次其ノ勢力ヲ增強シ昭和十九年一月

(一) 敵情

以來「グンビ」次「アドミラルタイ」諸島ヲ掠取シ「フィンシユ」マザブ
「マラワサ」等ヲ主基地トシテ連日「マジン」「ウエワク」方面ヲ四月
ニ入りテハ「ホーランドヤ」ニ至ル迄猛空襲ヲ加ヘツアリ又敵海
上部隊ハ二月「トラツク」ヲ四月初頭「バラオ」ヲ空襲シ艦船及
基地設ニ甚大ナル損害ヲ與ヘツリ

(二) 友軍ノ情況

1. 海軍

敵「トラツク」「バラオ」方面空襲ニ依リ基地施設ニ甚大ナル
損害ヲ受クルヤ「ニエギニア」方面ニ對スル兵力ノ增強軍需資
材ノ補給ハ極メテ困難トナリ該方面ノ防備施設ハ未完成
ノ儘放置セラルノ止ムヲ得サル情況トナレリ

2. 陸軍

A. 第十八軍

第四十一師團ハ主カ、ウエワクニ一部ヲ、マダン方面ニ配シ第二十師團第五十一師團ノ收容ニ任シツアリ
第二十師團第五十一師團ハ「ダンピール」海峡方面ヨリウエワクニ向ケ轉進中ニシテ其ノ大部ハ「マダン」以西ニ到着セルモ「セビック」河口ノ隘路ニ沮マレテ概ネ其ノ以東ニテリ軍司令部ハ「マダン」ニアリ

B. 飛行第六師團

主カハ四月初頭「ホーランドヤ」ニ移駐シウエワク方面ニ若干ノ地上部隊アリ

C. 「ホーランドヤ」ニ於ケル配備

飛行第六師團約一万 第十八軍兵站關係部隊約五千 共ニ「セント」ニ 飛行場地区ニアリ
兵站部隊ノ一部 「ホーランドヤ」港地区及「ハマデー」地区ニアリ

(三) 戦間直前ニ於ケル第九艦隊ノ配備

1. 一般配備

三月一日附第九艦隊ハ南東方面艦隊ヨリ除キ南西方面艦隊ニ編入セラル

三月二十五日附第七根拠地隊 第二特別根拠地隊ヲ解隊セラレ其ノ兵力ヲ併セテ第二十七特別根拠地隊ヲ編成セル艦隊司令部ハ四月十日「ウエワク」ヨリ「ホーランドヤ」ニ移駐シ第二十七特別根拠地隊主カハ「カイリル」島ニ一部ハ「マダン」方面ニアリ

第九十警備隊ハ「ホーランドヤ」ニアリテ長官直率ス

附屬駆潜艇ニ隻ハ「ハラオ」方面ニアリ

第八海軍建設部ハ解隊ノ上「マクワリ」第二十六建設部ニ併合ノ予定ヲ以テ約半部ハ「テム」方面ニ集結爾餘ハ

ウエワクヨリ、ホーランヂヤニ向ケ陸路行軍中ナリ
尚先遣隊トシテ、マンクワリニ向ケ進出セルモ、若干アリ

2. ホーランヂヤ附近ノ配備

港地区ニ艦隊司令部及第九十警備隊主力(約五五名)アリ
主要兵器 二十五発單裝機銃六門 センタニ、テムタ、デバ
プレ、コトラヂヤ、ウアマモ、アイタベ、シヤカムルニ約一ヶ小隊乃至
一ヶ分隊ヲ分派ス

「ホーテーカー」ニ艦隊附属水上機隊アリシモ飛行機ハ消耗シ盡
セリ

(四) 戦闘ノ情况

四月二十日 夜敵機動部隊「アドミラルチー」附近ヲ西進中トノ
情報ニ接ス

四月二十一日 〇八。頃ヨリ一七。頃迄概ネ二乃至三時間毎ニ艦

載機ノ一〇〇。頃陸上機ノ空襲アリ一ニ。頃空母視界内ニ入
ル 一八。頃ヨリ終夜巡洋艦ラシヤモ、繰徐ナル砲撃アリ

四月二十二日

〇六三。頃砲撃一時中止 同時ニ艦上機空襲開始終日續行

〇七三。送信所破壊

〇八三。頃敵潜水艦及輸送船各ニ三隻 駆逐艦十餘隻

「フンボルト」港浸入 駆逐艦ノ掩護射撃裡ニ一〇。頃主力ヲ

「ハマデー」海岸ニ 一六。頃一部ヲホーランヂヤ 港ニ揚陸開始ス

陸軍部隊ハ「コトラヂヤ」方面ニ於テ若干抗戦セルモ逐次飛行場

方面ニ圧迫セラレシモノ、如シ

艦隊司令部ハ「ホーランヂヤ」市街ニ續ク溪谷内宿舍ニ九十警

ハ市街南東方鐘乳洞ニアリ 「ハマデー」ニ揚陸セン敵ノ一部ハ

一七。頃陸路港地区南方ニ進出シ司令部九十警間、連

絡絶絶ス

敵ハ當日「テハブレ」ニモ上陸セルモ當時連絡吐絶シ情況不明ナリ
一ニ〇。非戦闘員（八建関係）ニ対シ「サル」ニ向ケ轉進命令
ヲ發令ス

一七〇。艦隊司令部「センソ」ニ向ケ港地区發

（和田、高橋、尺長三參謀連絡ノ為残留）

二三〇。九十警司令來着 左ノ艦隊命令ヲ傳達ス

『第九十警備隊ハ市街奥地 溪谷ニアリテ「ケリラ」戦ヲ續行
セヨ 情況眞ニ止ム得ザルニ至ラバ司令部ニ追及セヨ 司
令部ハ「センソ」又ハ「テム」ニアリ

四月二十三日

〇二〇。短移動送信機破壊 通信吐絶

〇三〇。九十警二十五機銃六ヲ以テ港岸ノ敵ヲ猛射ス

天明以後市街地区ハ敵ニ占領サル

夕刻九十警「センソ」ニ向ケ轉進

五「ホーランヂヤ」戦闘關係員爾後ノ情況

(1) 艦隊司令部關係

(1) 司令部

四月二十二日夕刻「センソ」ニ向ケ港地区發

直接護衛兵力

指揮官

森本 兵曹長

兵力

司令部附下士官兵旧七根部隊

第二通信隊ノ約半部

合計 約一〇〇名

爾後ノ消息殆ンド不明ナルモ「センソ」飛行場附近ニ於テ小
員數ノ隊ニ分高シ既ニ轉進セル陸軍部隊ヲ追求セルモ如シ

昭和十九年四月「ウ」ニモ發二十年二月「サル」ニ到着セル高砂義勇隊員ノ談ニ依レハ途中ニ於テ長官外数名ノ一行ニ會セリト其ノ時長官ハ既ニ死セシアリテ之ガ埋葬ヲ行ヘリト司人ハ出發地ノ關係上「セン」ニ湖南側ヲ通過セル筈ナレバ長官一行ト會ヒタル場所ハ「ゲ」以西ト認ムルモ日時場所共ニ不明ナリ

(二) 和田 高橋 尺長 三參謀

第二通信隊員司令部附下士官兵、日七根部隊等約一〇名ヲ率ヒテ二十三日 早朝 港地区發 司令部ヲ追求セルモ第二日以後ハ通跡不^明ナリ
五月二日頃「セン」ニ飛行場地区ニ到達セルモ同地ハ既ニ完全ニ占領セラレ友軍^見ナキヲ以テ五月六日「デ」ハブレ 南方ニ至ル同地区モ亦敵手ニアルヲ以テ十五日「デ」ト「裏山」ニ達ス「デ」トモ友軍

ナク敵斥候出沒シアリシヲ以テ「サル」ニ轉進ヲ決意シ六月二日「ムナ」(サルミ東方約五十軒)ニ到着ス
此ノ間長官一行ノ情況ハ全ク不明ナリシモ 時ニ前後セル陸軍轉進者ヨリ長官ラシキモノ「ゲ」ニム 附近 或ハ海岸道ニ見受ケタリトノ噂ヲ聞キ又先行ノ氣配モナキヲ以テ六月五日 和田 尺長ハ至急第二十六師團ニ連絡スベク先行 高橋ハ爾餘ノ部隊ヲ率ヒテ長官一行ヲ收容スベク「ヤムナ」ニ待機セリ和田 尺長ハ爾後確實ナル消息ナキモ 隨行セル 増田 機兵長ト「トル」河附近ニテ出會ヒタル者ノ聞ク所ニ依レバ 和田 參謀一行ハ「トル」河 右岸ニ於テ糧食盡キ尺長 和田ノ順ニ一日達ヒニテ死セリト 因ニ増田モ爾後ノ消息不明ナリ
高橋ハ十日間「ヤムナ」ニ待機シ通過部隊ヨリ長官一行ノ情報蒐集ニ努メシモ何等ノ手懸リナク前後ノ情況ヨリ推定シテ

長官到着ノ見込ミナキト判断シ六月十二日約六十名ノ部隊ヲ率ヒテ「サルミ」ニ向ケ出發 七月十九日第三十六師團司令部ニ連絡ス 途中五ヶ小隊ニ分チテ行軍セルモ「トル河」附近ノ情況險悪ニシテ「サルミ」ニ到着セルモハ三ヶ小隊ノ一部ノミナリ(ニヶ小隊ハ全然行方不明)

(三) 田島大尉(艦隊司令部附 旧七根)

田島大尉ハ分遣隊長トシテ「セント」ニアリタルモ空襲開始ト同時ニ連絡吐絶セシ爲同地陸軍部隊ニ合同シ「サルミ」ニ向ケ轉進 五月初頭同地着 次テ陸軍大發ニテ「マノクワ」着 爾後不明ナリ

(四) 第九十警備隊

四月二十三日夕刻(一六〇頃)港地区發司令部ヲ追求ス 二十八日夜間「セント」ニ飛行場地区突破ノ際敵哨戒兵ノ發見スル

處トナリ翌二十九日早朝敵ノ攻撃ヲ受ケ小部隊ニ分散シ其ノ大部ハ爾後ノ消息不明ナリ

諸情報ヲ綜合スルニ司令鬼末大佐ハ五月下旬「テム」西方地区ニ到達セリト推定セラルモ爾後不明

先任將校河野大尉ノ消息ハ全ク不明ナリ

内務長坂本大尉 主計長五十嵐主計大尉ノ一行ハ五月下旬陸軍北園部隊本部ト共ニ「ヤムナ」ニ到達糧食獲得ノ爲同地ニ滞在中 内務長ハ六月廿七日主計長ハ六月十二日戦死 掌工作長永澤工曹長外二名ノミ七月下旬「サルミ」ニ到着ス

水警科長飯島中尉ハ四月三十日「セント」ニ飛行場裏山地区ニテ軍醫長一行ト出會ヒソルモ同處ニテ再ニ敵ノ攻撃ヲ受ケ分離シ爾後消息不明ナリ

隊附伊藤軍醫大尉ハ五月三日夜「セント」湖北岸「ソシリ」ニ於テ敵襲ヲ受ケタル際軍醫長ト分離爾後不明噂ニ依レバ五月中旬「テムタ」西方地区ニアリタリト
軍醫長福島軍醫大尉外数名ハ「セント」ニ「ソシリ」ケム
「アルモバ」「ヤムナ」「ゴエスチン」(トル河上流約二十軒)ヲ經テ六月四日早朝「サルミ」地区ニ到達ス

ハ) 第八海軍建設部

「テムタ」ニアリシ約一〇〇名ハ其ノ儘「サルミ」ニ向ケ轉進シ約八〇名ハ五月初頭「サルミ」ニ到着ス
爾後第三十六師團ノ指揮ヲ受ケ現地開發ヲ開始セルモ五月十七日「サルミ」附近亦敵ノ上陸スル所トナルヤ師團ヨリ「マノクワリ」轉進ヲ命ゼラレ飛行第六師團ノ一部ト共ニ陸行ス途中心土民ノ襲撃ヲ受クル事数次殊ニ「クルド」島ニ於

テハ約三〇名虐殺セラル依リテ「マノクワリ」行キテ斷念シ反轉シテ「サルミ」西方地区ニ集結シ現地自治ヲナス「ホーランドヤ」以東ヨリ轉進セルモノハ殆ンド到着シアラズ

ニ) 各地派遣(出張員)ノ情況

艦隊機関長、第二通信隊司令、同隊員及八建職員各数名ハ當時「マノクワリ」出張中ニシテ爾後各部ニ轉屬セリ
第二通信隊数名「ウエワク」残留、儘ナリ
薄井司政官、柿谷馮龍託内地出張中
安田馮託外ニ名「バラオ」駐在中
今井軍醫中佐「マノクワリ」出張中

六) 「サルミ」現地自治情況

停戦前轉進部隊ニ對スル師團ノ方針トシテ陸海軍人ニ若干ノ米塩、配給セルモ軍屬ニ配給ナキ為海軍部隊ノ大部ハ陸

軍部隊、使役ニ使ハレ其ノ際、手當米及古農園等、漢ッソ、自活ス

昭和十九年末師團方針ハ現地自治ニ定リ、依テ海軍部隊モ積極的ニ農園開發ニ從事シ敵機ノ妨害ヲ受ケツ、モ二十年四月頃ニ六一鷹農産物ニ據ル自治態勢、確立セリ

爾後之カ強化ニ努メ八月頃ニハ概テ安住シ得ルノ態勢トナレリ停戦以後ハ更ニ容易ナル自治ヲ續ケシモ濠軍ノ要求ニ依リ二十一年四月七日「サルミ」地区ニ集結ヲ命ゼラレシ爲 移轉ニ依ル過勞ト集結地耕作面積不足ノ爲 陸軍部隊ヨリ若干ノ補助ヲ受ケツ、辛ジテ自治ヲ繼續セリ

七、第二十六海軍建設部「サルミ」残留者ノ情況

(1) 残留者氏名

海老名 庄次郎

松本 富藏
床井 勝

(2) 身分

第二十六建設部嘱託

所屬會社

南洋興發株式會社

(3) 情況

右三名ハ何レモ十年乃至三十年間當方面ニアリテ農産部門ニ發展シアリシモノニテ農耕方面ノ造詣深ク且多數ノ土人ヲ手馴ケアリシヲ以テ兼テ陸軍嘱託ヲ命ゼラレ陸軍部隊現地自治ニ協力セリ

八「サルミ」地区引揚ケ情況

(4) 六月三日「サルミ」發 十六日名古屋着 Vニ七號ニテ歸還セルモノ

合計一二七名

内譯

軍人

三十一名

第九艦隊関係

十九名

第十八警備隊

十二名

軍属

九十六名

第八海軍建設部

九十四名

第二十六建設部

二名

(四) 六月十日頃 氷川丸にて「サルミ」發予定者

軍属(八建)

三名

(イ) 戦犯関係にて「ホーランドヤ」ニ連行サレシ者

軍人(十八警大尉尾島三郎)一名

軍属(八建)

四名

(ニ) 其、他

停戦後 勞務團トシテ「ホーランドヤ」派遣者

軍属(八建)

五名

同「ホーランドヤ」派遣者

軍属(八建)

三名

何レモ該地引揚ト共ニ既ニ歸還セルモノト認め

台湾人約一〇名 朝鮮人八名ハ 五月二十八日 聯合軍指令

ニ依リ現地ニ復員 ヲニ七號ニテ 台湾人ハ基隆 朝鮮人

八名古屋ニ歸還セリ

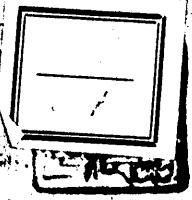
(終)

12-1
C73

1920

左土研関係
依土研司各報告
併送説明書及び下等事の
資料等
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

ス



調査資料

左土研関係
依土研司各報告
併送説明書及び下等事の
資料等
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

469

二校人調第二野ノ三

第一段其の人名調査証

(注) 護衛艦津軽 十六号二十号駆潜艇

之 科隊 改編 所在等ニ関シテハ九艦隊関係佐五持ノ項参照ヲ要ス

(リリニ) 関係

ハ、リリニ 在島首死及認定ニ関シ左ノ通知アリ

西カリン 方面防備部隊機密第十号通牒 (三十根司令發令モ)

ヘリニ 島在島首死及認定ヲ十九年十一月二十一日トス (以下略)

三十根二十一年一月九日。九一六。番電 昭依頼第(号)

又、西カリン空、アイライ 派遣隊長持粉ヲ佐田中五一 (淨光 廣島県大町ニ区 嶺國太郎方) 帰還報告

西カリン空本部 / 参考資料報告アリ、
アイライ派遣隊

右報告ニヨレハ十九年九月二十六日、ヘリニニテ總員新込ヲ決行シテ消息ヲ明トナレルモノ多敷アリ

十月七日夜半第二次連上陸新込ヲ決行セリ 大發三隻一分米出發

戦米被害共下詳ナルモ主遺着ナシ

六十一號機

西カリン空

西カリン空

西カリン空

十九年九月二十六日 (總員新込)

十九年九月二十六日 (米) 回運上陸

十九年九月二十六日 (米) 回

飛行機隊	飛行機隊 水田親少佐指揮、隊員一〇名 峯教師、指揮、隊員二〇名 王子親政、指揮、隊員二〇名 從中佐花軍務、指揮、隊員二〇名
軍隊	軍隊 王子親政、指揮、隊員二〇名 從中佐花軍務、指揮、隊員二〇名
民政	民政 小野寺民政、指揮、隊員二〇名

右、外の遠征航空隊准士官以上一名下士官兵八二名

四十八號機密三五、二十一年一月三日附十八號機密、代理領騰干代治
海軍少佐程士、四及又二、止、而島行、不、以、報告、冬、照、ノ、ト
二、後、ノ、候、兵、佐、并、後、向、長、宛、程、士、ヲ、リ、ル、モ、
三、二、二、設、主、大、尉、渡、内、忠、生、の、残、存、整、理、ニ、任、シ、タ、リ、

戦斗状況
各隊共千回司令官指揮下、大伴岡、場所、戦斗、各隊共二回、林ノ、状
況、在、リ、

月、日	戦況	損耗	残存
一九一五年十二月	敵、洞窟、西、洞窟、於、ル、敵、ニ、対、シ、テ、 洞窟、撤退、	一、六、七	一、六、七
一九一六年一月	残存兵力、三、二、後、方、撤退、 食糧不足、 未詳、洞窟、上、 前田司令官指揮、約、二、〇、名、敵、 包圍、攻撃、ヲ、受、テ、殆、ト、戦、死、	一、六、七	一、六、七
一九一六年一月	前田司令官指揮、約、二、〇、名、中、 戦死、者、戦、死、者、五、人、 殘存、者、一、〇、名、 残存、者、三、名、 比、下、ノ、島、ニ、戦、死、者、一、名、 方、カ、多、シ、	一、六、七	一、六、七
一九一六年一月	前田司令官指揮、約、二、〇、名、中、 戦死、者、戦、死、者、五、人、 殘存、者、一、〇、名、 残存、者、三、名、 比、下、ノ、島、ニ、戦、死、者、一、名、 方、カ、多、シ、	一、六、七	一、六、七

戦死、者、五、人、
殘存、者、一、〇、名、
残存、者、三、名、
比、下、ノ、島、ニ、戦、死、者、一、名、
方、カ、多、シ、

終戦後ノ捜索状況

捜索隊行動概要及捜索結果報告

昭和二十一年九月十九日泉陸軍大尉以下五十五名(ビタク島又ニル島
而島捜索隊ヲ含シ)ハコノクワシ者

ビタク島捜索隊ハ三十一日ビタク島ニ到着(隊長泉陸軍大尉外三十五名)
尔後米軍及海軍ノ支援ニ依リソリト西方約四軒「ホス子」東方ニ

村ニ五戸同並ニ同業方ヲ同密ニ捜索ス
十月二十日ビタク島ニ到着陸軍将兵八十四名ヲ卷足セルモ海軍團

係人員並ニ遺物亦等々見シ得ス
捜索隊長外三十六名ハ十月四日ソリト出港同「ホス子」島コリト到

着同島郡長首長ヲ集メ稍細ニ調査セルモ生存者ヲ認めタルト
ナシト附近居住用倉ヲ視察セルモ白骨八作ヲ認めルルニ

干四少将一行ハ十九年十一月迄後(月未詳)海軍兵官等官ヲ
担架ニ乗セ「ホス子」島「ホス子」地境「ソレ」テイ「ソ」中「入」リ

尔後行方不明トナルモ「ホス子」島「ホス子」ニ至リ「ソ」中「入」リ
二丁名ノ死骸アリト前後ノ状況ヲ綜合スルニ概々同所ニ於テ最後
ヲ遂ケラレタルモノト認めラレ

舟艇其ノ他ノ都合ヨリス「ホス子」島ニ捜索不能ニテ十月七日去港

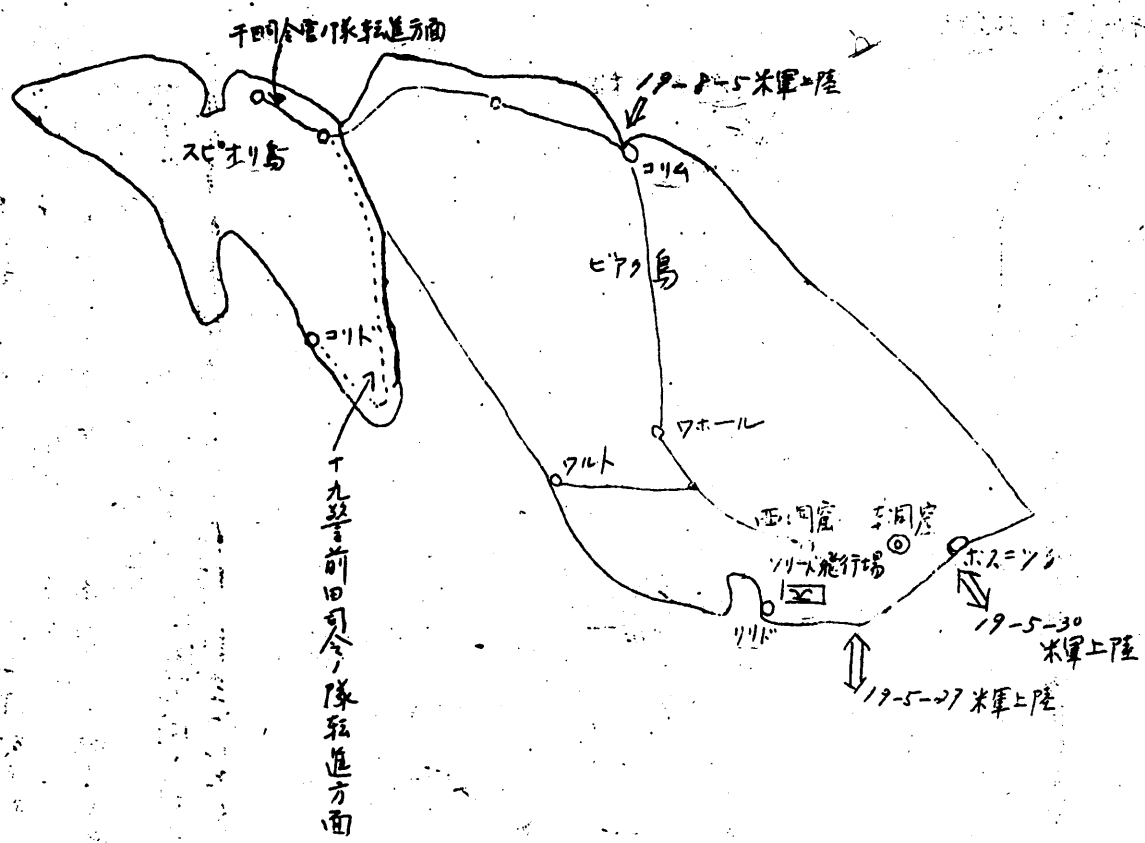
ビタク島ニ級遺セリ

依而以上ヲ綜合スルニ海軍部隊 駐進後飢餓 疾病等ヲ

全員死セラルト認め

二十一年十月十八日 捜索隊長陸軍大尉泉 圭

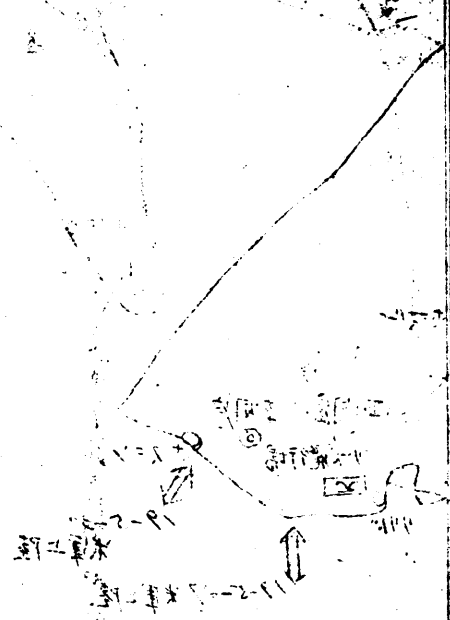




3

二丁名ノ死骸アリト前後ノ状況ヲ綜合スルニ種子同所ニ於テ最長
 ラ遂ケラレタルモノト認メラレ
 船隻其ノ他ノ都合ヨリスピオリ島ニ搜索不能ニテ十月七日去港
 ヒアク島ニ設置セリ
 依而以上ヲ綜合スルニ海軍部隊ニ駐進後飢餓疾病等ヲ
 全員死セラルト認ム
 二十一年一月十八日 搜索隊長陸軍大尉泉三一

島嶼の概略図



五月十八日 敵艦隊の侵入を察知し、本隊は即ち出陣し、島嶼の東側に陣取った。敵艦は本隊の砲火に耐えられず、退却した。本隊は追撃し、島嶼の南側に陣取った。敵艦は再び侵入し、本隊は砲撃した。敵艦は沈没した。本隊は島嶼を占領した。

ビアノ島戦闘行動概要

第十八警備隊

五月	六月	戦況	消耗	残存	戦死
二六	二七	<p>作戦會議 ソノモラル主力 一。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 二。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 三。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 四。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 五。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 六。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 七。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 八。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 九。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結 十。名ヲ三前亦三前ヲ方面に集結</p>			

五 二八	五 二九	六 一
<p>五耗 十三耗機銃約五十及機銃隊若干 (第一五隊隊長半野中尉指揮)本 部約三百ノ兵ト設營隊員モツル東 洞窟ニハ春藤大尉ノ指揮スル太谷中 隊上陸用舟艇ヲ以テ相在橋(ハライ) 方面ヨリニ陸ヲ開始(戰車ヲ伴フ)敵 二十五輛ノ戰車ヲ我ガ十輛ノ戰車ヲ 以テ之ヲ撃退ス。高角砲ニ敵機一機撃 陸驅艦一隻ニ二弾命中撃破セリ 終日敵飛行機ノ空襲アリ一面洞窟原 ト化シ電話線破損移シ艦砲射撃ヲモ 甚シ</p>	<p>大洞窟空壕虫ヲ蒙ルコト甚シ夕刻敵 甲巡ニ乙巡ニ驅四海エトラツク約二十 不又ネツク方面ニ遊弋ス。又某方面ヨリ 戰艦ニ空母ハ巡下驅下敵是時三 十ノ機動部隊ヒアツク島ニ向ヒツアリ トノ報アリシモ友軍機守後ニ時過</p>	

六 三	六 五	六 六	六 七
<p>米後之ヲ攻撃ヒル爲敵艦船(何レカ) 遊ヲ消ス</p> <p>敵飛行機終日上空ヲ警戒セリ投彈ナシ 敵機カ夜襲ヲ回避シツ、不又ネツク 飛付場ノ修營ニカ、ル夜間ハ、イウイ 島ニ遊フ</p> <p>五千頃敵艦砲彈三發洞窟内ニ突入 設營隊員三戰死。友軍機ヒアツク島 北東海面ニ遊弋スルル型一撃沈ハ ハマ型一五近彈ヲ與ハル情報ニ接ス 哨艦音拾夫敵兵潛入ノ事友軍ナリ兵 員ノ疲勞漸ク顯着トナシ兵隊大部 分ハアメリハニ罹ル</p> <p>早朝敵艦砲彈ニ從本部(命中)若已 先任參謀頭腹脚部中ケ所ヲ傷 重傷連絡中ノ中島(曹長)五名柱烈ヲ ル戦死敵第三飛行場ニ上陸空襲艦</p>			

砲重砲等回断ナリ射撃ナリ 洞窟若
ノ其ノ附近敵百米ニ命中
早朝ヨリ作戰會議(沼田參謀長
田司令官以下首脳部參集)及軍兵
發彈樂終ニ達クタル 敵戰車致納
洞窟附近ニ未戰ヲ見ル之ニ対抗スルニ
ビール瓶ニ石油ヲ混入シテ榴彈ニ用
戰法ヲトル 陸軍第一大隊高山軍曹
ハ爆藥ヲ抱イテ敢然敵戰車ニ体當
リテ重破敵車セリ
午後三十三防空隊佐藤兵曹長ノ率
イル作候ハ、モノナル 裏山附近ニ架
セル敵電線ヲ切斷且敵砲台一ヲ發
見 洞窟ニ引違サントセルニ敵戰車ヲ
發見 早散ニ隱レ進行ヲ開始セル處
敵銃射重ヲ受ケタリ 時既ニ敵ニ包圍
セラル 暗夜ヲ利シ地伏一時間五米位ノ
速度ニテ重圍ヲ脱シ敵幕舎ニ去

過ヲヤ 斬込ヲ敢行シ敵ニヒルム隙ニ
乘ジテ脱去之ヲ報告ス
敵重砲、命中率益々確實ナル程
砲空襲モ依然活潑ナリ 此ノ日沼田
參謀長以下連絡ノ為、ヒアノ島
脱去ヲノゾリ、カミヤノ第一方面軍
司令官(柳遠)ノ為ナリ、時着機
塔乗員四名、井川技術大尉、岡田報
道班員之二、從ヒテ午後十二時司令官
見送りハ、理ニ、コリムニ、洞窟ヲ去
發セリ 當時左記ノ首脳部、居テ
赤田貞敬司令官、作候隊佐藤兵曹長
村川中尉(三三陸隊)中地中尉(九營司令
前田中尉)大佐、石色參謀、藤水大尉、及井
軍醫長、小早川中尉、賀野中尉、藤本中尉、青木
主計長
以上、岡田報道班員、記録ニ依ル

消耗 残存

一九 七一九 出 二日 マノクソリ着、三三防空隊員機兵長

一 疎正(佐)ノ談

六 敵ハ洞窟後方ニ廻リタルモノ、如シ機

銃及砲彈洞窟東側入口附近ニ命中ス

主計科意欲炸薬至難トナリヤム

独歩可能傷者ニニ。名一回後退談言

隊員及非戦闘員後退ス

洞窟内凄惨、患者後退アリ

マノクソリヨリ来レル三三師陸兵五百名

ニ出テ

六 水源地着診察アリ設置隊十九警電

路員患者電信兵各部隊主計科軍

医科駐在セリ、敵砲聲音旺ナリ

夜迎兵曹長發熱、為後退シ来ル

設置隊員約八十名ニテ洞窟附近ノ糧

食運搬ヲ行フ

洞窟附近ヲ員傷セル重症患者ハ自決セリ

ト談アリ

六 二 海軍部隊モ日々刻々ト後退、兵水源地

ニ集ル、三三防空隊石山兵曹長員傷後

退シ来ル、河林兵曹長行方不明、分隊

長員傷

六 三 水源地敵機ハ發先トナリ機銃掃射ヲ

受テ死傷積去ス、内科患者復集ナシ

員傷者三廿二回ノ治療トナル

六 四 三三防空隊分隊長倉塚運搬後退中

戦死、水源地トハソコト川上流ハ一地点

ナリ

前田司令ハ二三十名ノ兵員ト共ニ峰部

隊宿舍ニアリシガ敵砲撃ヲ三依リソルト

方面ニ後退セリト又三三防空隊上官ハ

一名、佐藤兵曹長ニテ前田司令官ト

共ニ在ラレタリ(西兵曹ノ談)

六 五 千田司令官ハ三三防空隊細川屯住隊長

外数名ノ兵ト共ニ二十四、洞窟北ニ着

司令官元氣ケレドモ杖ヲツカレ居

六 二九

水源地モ危險トナリタル為テ行可能
者ハ北海岸ニ後退ノコトナリ一行五
十一名八十三防空隊若井衛兵長引
率シ朝五時出發午後五時頃北岸着
一日一回粥ニテ配食サル

水田役少佐談、水源地砲撃サレハ為
司令部ハ水源地上流ニ新(ワトル河
西方)ニ移動セリト、水田役少佐ハ設
営隊員全員ヲ率リテ山越ニテ午後
五時頃出發(設営隊附軍医長主計長
ト合部)

水田部隊後退光コリトニ向ケ山越ニテ
出發(患者先任者天口六曹)

西北海岸ニ出ツ、椰子、蜜、ヤトカニテ
飢ヲ凌グ(四名若井兵長ニ引率サレ
之カ最後ノ組ナリ)

桑原大尉(設営隊) 着ト兵二志盛
ニ泊ルニ合、木ヲ貫ヒ六名ニテ食ス

七 六

桑原大尉ト同道、司令官ヨリ患者及
非戦闘員ハ便下リ次第、マノソリニ後
退セヨトノ命ヲ發セラル

午後四時頃、コリト、兵政府、ナリタル処
ニ到着ス、陸海軍部隊塔中ニテ荒廢
セル兵政府ノ一部、点在露營シタル

吾々モ宿營セリ(若井兵長以下五名)
六名ハ全部疲勞ト發熱ニ冒サル

海岸、ニ後戻リス、各自歩行困難峰
隊先任下士官坂本上曹、今村二機曹ニ

遣フ、又、コリトニ帰ル
坂本上曹大發ニ復テ拾フ

峰隊自動車運轉員ト共ニ大發修理
オランスバリ一五。米汁ニテ敵飛行機

ノ襲撃ヲ受ケ大發大炎死傷者多数
生ス

午後六時頃陸岸ニ泳ギ着キ歸進中、陸
軍衛五兵ニ救助サレタリ

七 七 二一

七 七 二一

七 七 二一

一 所在兵力

一。一 燃 廠	香港傳中佐指揮ノ一々大隊	香港中佐(三〇一七五)駐
二。二 燃 廠		
三。三 燃 廠		
四。四 燃 廠		
五。五 燃 廠		
六。六 燃 廠		
七。七 燃 廠		
八。八 燃 廠		
九。九 燃 廠		
十。十 燃 廠		
十一。十一 燃 廠		
十二。十二 燃 廠		
十三。十三 燃 廠		
十四。十四 燃 廠		
十五。十五 燃 廠		
十六。十六 燃 廠		
十七。十七 燃 廠		
十八。十八 燃 廠		
十九。十九 燃 廠		
二十。二十 燃 廠		
二十一。二十一 燃 廠		
二十二。二十二 燃 廠		
二十三。二十三 燃 廠		
二十四。二十四 燃 廠		
二十五。二十五 燃 廠		
二十六。二十六 燃 廠		
二十七。二十七 燃 廠		
二十八。二十八 燃 廠		
二十九。二十九 燃 廠		
三十。三十 燃 廠		
三十一。三十一 燃 廠		
三十二。三十二 燃 廠		
三十三。三十三 燃 廠		
三十四。三十四 燃 廠		
三十五。三十五 燃 廠		
三十六。三十六 燃 廠		
三十七。三十七 燃 廠		
三十八。三十八 燃 廠		
三十九。三十九 燃 廠		
四十。四十 燃 廠		
四十一。四十一 燃 廠		
四十二。四十二 燃 廠		
四十三。四十三 燃 廠		
四十四。四十四 燃 廠		
四十五。四十五 燃 廠		
四十六。四十六 燃 廠		
四十七。四十七 燃 廠		
四十八。四十八 燃 廠		
四十九。四十九 燃 廠		
五十。五十 燃 廠		
五十一。五十一 燃 廠		
五十二。五十二 燃 廠		
五十三。五十三 燃 廠		
五十四。五十四 燃 廠		
五十五。五十五 燃 廠		
五十六。五十六 燃 廠		
五十七。五十七 燃 廠		
五十八。五十八 燃 廠		
五十九。五十九 燃 廠		
六十。六十 燃 廠		
六十一。六十一 燃 廠		
六十二。六十二 燃 廠		
六十三。六十三 燃 廠		
六十四。六十四 燃 廠		
六十五。六十五 燃 廠		
六十六。六十六 燃 廠		
六十七。六十七 燃 廠		
六十八。六十八 燃 廠		
六十九。六十九 燃 廠		
七十。七十 燃 廠		
七十一。七十一 燃 廠		
七十二。七十二 燃 廠		
七十三。七十三 燃 廠		
七十四。七十四 燃 廠		
七十五。七十五 燃 廠		
七十六。七十六 燃 廠		
七十七。七十七 燃 廠		
七十八。七十八 燃 廠		
七十九。七十九 燃 廠		
八十。八十 燃 廠		
八十一。八十一 燃 廠		
八十二。八十二 燃 廠		
八十三。八十三 燃 廠		
八十四。八十四 燃 廠		
八十五。八十五 燃 廠		
八十六。八十六 燃 廠		
八十七。八十七 燃 廠		
八十八。八十八 燃 廠		
八十九。八十九 燃 廠		
九十。九十 燃 廠		
九十一。九十一 燃 廠		
九十二。九十二 燃 廠		
九十三。九十三 燃 廠		
九十四。九十四 燃 廠		
九十五。九十五 燃 廠		
九十六。九十六 燃 廠		
九十七。九十七 燃 廠		
九十八。九十八 燃 廠		
九十九。九十九 燃 廠		
一百。一百 燃 廠		

二 戦中状況

一。一 燃 廠	敵未攻部隊中現	在リタルニト確
二。二 燃 廠	艦砲射撃上陸予備行動開始	度ニシテ終戦正
三。三 燃 廠	本格的戦斗開始	員等照会ス
四。四 燃 廠	兵力頂上状況ニ應ニ戦線縮小整理	ル全ク消息
五。五 燃 廠		
六。六 燃 廠		
七。七 燃 廠		
八。八 燃 廠		
九。九 燃 廠		
十。十 燃 廠		
十一。十一 燃 廠		
十二。十二 燃 廠		
十三。十三 燃 廠		
十四。十四 燃 廠		
十五。十五 燃 廠		
十六。十六 燃 廠		
十七。十七 燃 廠		
十八。十八 燃 廠		
十九。十九 燃 廠		
二十。二十 燃 廠		
二十一。二十一 燃 廠		
二十二。二十二 燃 廠		
二十三。二十三 燃 廠		
二十四。二十四 燃 廠		
二十五。二十五 燃 廠		
二十六。二十六 燃 廠		
二十七。二十七 燃 廠		
二十八。二十八 燃 廠		
二十九。二十九 燃 廠		
三十。三十 燃 廠		
三十一。三十一 燃 廠		
三十二。三十二 燃 廠		
三十三。三十三 燃 廠		
三十四。三十四 燃 廠		
三十五。三十五 燃 廠		
三十六。三十六 燃 廠		
三十七。三十七 燃 廠		
三十八。三十八 燃 廠		
三十九。三十九 燃 廠		
四十。四十 燃 廠		
四十一。四十一 燃 廠		
四十二。四十二 燃 廠		
四十三。四十三 燃 廠		
四十四。四十四 燃 廠		
四十五。四十五 燃 廠		
四十六。四十六 燃 廠		
四十七。四十七 燃 廠		
四十八。四十八 燃 廠		
四十九。四十九 燃 廠		
五十。五十 燃 廠		
五十一。五十一 燃 廠		
五十二。五十二 燃 廠		
五十三。五十三 燃 廠		
五十四。五十四 燃 廠		
五十五。五十五 燃 廠		
五十六。五十六 燃 廠		
五十七。五十七 燃 廠		
五十八。五十八 燃 廠		
五十九。五十九 燃 廠		
六十。六十 燃 廠		
六十一。六十一 燃 廠		
六十二。六十二 燃 廠		
六十三。六十三 燃 廠		
六十四。六十四 燃 廠		
六十五。六十五 燃 廠		
六十六。六十六 燃 廠		
六十七。六十七 燃 廠		
六十八。六十八 燃 廠		
六十九。六十九 燃 廠		
七十。七十 燃 廠		
七十一。七十一 燃 廠		
七十二。七十二 燃 廠		
七十三。七十三 燃 廠		
七十四。七十四 燃 廠		
七十五。七十五 燃 廠		
七十六。七十六 燃 廠		
七十七。七十七 燃 廠		
七十八。七十八 燃 廠		
七十九。七十九 燃 廠		
八十。八十 燃 廠		
八十一。八十一 燃 廠		
八十二。八十二 燃 廠		
八十三。八十三 燃 廠		
八十四。八十四 燃 廠		
八十五。八十五 燃 廠		
八十六。八十六 燃 廠		
八十七。八十七 燃 廠		
八十八。八十八 燃 廠		
八十九。八十九 燃 廠		
九十。九十 燃 廠		
九十一。九十一 燃 廠		
九十二。九十二 燃 廠		
九十三。九十三 燃 廠		
九十四。九十四 燃 廠		
九十五。九十五 燃 廠		
九十六。九十六 燃 廠		
九十七。九十七 燃 廠		
九十八。九十八 燃 廠		
九十九。九十九 燃 廠		
一百。一百 燃 廠		

所在軍人軍属員以下陸我部隊ヲ編成ニ従呆洋地ヲ構築ス

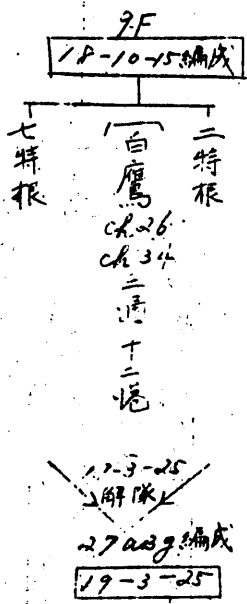
タルカニ島ニ在リタルニト確度ニシテ終戦正員等照会スル全ク消息

六―五
六―五
六―一三
六―一七
六月下旬
七月下旬
六月下旬

本日マテ本陣地ニヨリ戦斗繼續セリ
我方被害戦死行方不明者約一五〇名
以後各隊毎ニ遊撃戰實施
敵ノ總攻隊ヲリ主陣地潰滅
在島残存ノ兵力ノミテ全部全滅
食糧缺乏ニ相當困難ナル状況ニナル
以後ノ島外ニ脱去ノ企圖モ、八坂奥留艦ノ監視
視ノ間隙ニ見、八坂ヨリ脱出スルモノ十七處見
ノ大半ハ奥留艦ニ掃射受テ、ボルト不才島着
岸後ニ八坂奥留艦ハレクリ
敵來攻前「シラカ」島對岸「ホリ」不才島ニアリシ
「シラカ」島知事庁勤務員脱去セル一。燃料
廠勤務員ニ警備隊員約二〇名ハ途中停處
ナリ終戦後「マハカ」島上於テ「二」特根ニ合同セリ

判明セザルモシ
戦死認定日所
二〇一六一二七
五
二〇一七一三子

二―キニノ北西岸 才九艦隊同係



部 隊	月 日	状 況
9F司令部 旧七特一部 二通一部	一九四一〇	ウエフビヨクホラニシヤ到着
附属水滅隊	一九四一〇	ホリテカリニヤヒモ飛行機下シ

二十七特根 一九四一。主力「カバ」島

一部「マ」

九。警 (約三五名)

一九四一。カバニシテ「カバ」主力
「カバ」テカバ「カバ」
「カバ」カバ「カバ」カバ
「カバ」カバ「カバ」カバ

一分隊
〇五分隊
派遺隊

八 建

一九四一。約羊部

「カバ」方面ニ集兵
「カバ」カバ「カバ」カバニ向テ陸路行軍中
先遣隊トシテ「カバ」ニ向テ進出中

一九四一。ホーノニシテ地ニ敵來攻上陸

司令部ト九。警ト連絡絶

「カバ」ニ敵ノ一部上陸

八建ノ非戦中員カバニ向テ前進開始

司令部

セニシテニ向テ「カバ」カバ「カバ」港地ニ出発

旧七特根ノ一部
ニ通ノ約半部

四一三 九。警「セ」ニ向テ前進開始

外隊三各ニ通旧七特根等約一〇名「セ」ニ向テ港地ニ出

四一八 九。警「セ」ニ飛行場附近ニ敵ト交戦四分五裂シテ其ノ大部

ニ九 消息不明トナル

五初 九。警「セ」ニ八建ノ約一〇〇名中約八〇名カバニ到着

五一七 敵軍「カバ」附近ニ上陸ス

五二九 九。警ノ一部「カバ」到着

七二九 九。警ニ名「カバ」到着

(1) カルミ西方地区ニ終結セルモノ終戦迄現地ニ自治セリ
 八建ノ隊員ニシテホラニシヤ以東ヨリ松道セルモノハカルミ地区ニ到着セルモノナシ
 (2) 八建残存整理員ヨリ報告同ノ口ニ松道後ノ行跡概要報告書参照ヲ要ス
 (3) 今後戦後調査ニシテ要マル諸合ノ認定日附

- ホーランドヤ地区 一九一四―二五ヨリ一九一五―三マテ
- セントニ 地区 一九一四―三〇
- ケ子ム 地区 一九一五―二五
- テムタ 地区 一九一六―一五
- サルミ 地区 一九一六―二五

沖繩関係

新仁部隊	指揮及司令部(庁)状況	認定日附
沖繩根 司令部	司令部以田少将(三〇―六一三戦死) * * * 前川大佐(三〇―六一三戦死) * * * 山本大佐(三〇―六一三戦死) * * * 二派遣隊アリ	
南七諸島 航空隊	司令部町大佐(三〇―六一三戦死) 本部小隊及進出飛行場専兵島南奈島宮古	小錦地区ニ在 リニセ 二〇一六一―ニヨリ 二〇一六一―五マテ
九五一空 沖繩派遣隊	隊長高就島中佐(生還)	
二二六設	又部 小錦地区 一部 三島島	
三二〇設		
佐古保軍需 沖繩出張所	准士官以上七才官五 軍需一三 出張所大佐 沖野中一(三〇―六一三戦死)	

佐官上陸隊
神樂上陸隊

二丁上陸隊
神樂上陸隊

第一海上護衛隊

二七海上護衛隊

戦闘状況

二〇一三一三

米軍未攻
浦尾島所在海軍各部ハ汗夜司令部命令ニテ陸戦
部隊ヲ編成ス

四一四一

米軍小録北飛行場方面ニ陸軍未離表津尾島ハ南此ニ中断ス
主戦部隊聯合特陸出撃ヲ首里南方ヲ一線ニ出撃ス
特陸指揮員會議
米海軍各艦武庫方面地ニ全海軍部隊死傷ニ決ス

五一一二

主戦兵器ヲ破壊陣地ヲ爆破シ移動ヲ開始ス
夕刻喜屋武岬地ニ前進集結完了ス小録北陣地ニ後攻ヲ
命ゼラル

五二二九

陣地ニ後攻完了セルモ人員被破ノ消耗甚シ
敵那覇市ヲ占領シ小録北地ニ侵入シツアリ

六十三 敵機襲撃小島に上陸地方面に上陸未成
 六十四 小島に敵機侵入に果して小島に全着断之開戦
 六十五 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦
 六十六 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦
 六十七 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦
 六十八 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦
 六十九 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦
 七十 敵機襲撃小島に果して小島に全着断之開戦

本籍地 鹿児島海軍部 七瀬村 子母木 2743

第一支隊 海軍部 第一隊 大村 村長 多平 現狀

第一支隊 海軍部 第一隊 大村 村長 多平 現狀

支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊

支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊
支隊	支隊	支隊

支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊
 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊
 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊
 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊 支隊

本籍地 鹿児島海軍部 七室村 字母松 2743
第22震洋隊 豊反部隊 一飛曹 木村厚美

吳志飛 14944

19. 10. 中旬ヨリ 豊反部隊編成 (川棚)ニテ針尾海兵團ニ待機候

20. 1. 10. 25日 豊反部隊防備隊ニ待機

21. 11. 25日 豊反部隊本艦

1. 11. 25日 津總金武灣上陸以後全員ヲ壕ヲ掘ル

3. 1. 25日 敵ノ空襲アリ戦死者20名

3. 1. 25日 敵ノ空襲アリ戦死者20名

敵ノ空襲アリ戦死者20名

敵ノ空襲アリ戦死者20名

功 守名堂ニ集結(陸海軍合シテ150名位)シテ10名

位ニテ中川方面ノ敵ヲ300名ニ斬ルニ敵全滅

5. 11. 25日 一次回斯ルノ敵ヲ警戒ノ為ニ成功ニ終ルル以テ收山陸
ニ引揚ル(當時陸海軍合シテ100名位)以テ敵全滅

二、鑑之首題、洋左記ニ依リ調製送付ノトニ取計ハレ度

處理事項	處理	領
外部隊 圖書	外也ヨリ押運部隊(廠)、所轄長(一部押運)トキハ其先 任者ハ上陸也連絡所ニ於テ第一樣式ニ依リ作製シ第二 樣式(送付)ニ	精進(船長)ニ未だ(艦)押運者ニ就テ第一樣式ニ依リ 作製シ、上陸也連絡所ニ經由押運者、在籍 地方後員ヨリ圖書整理班ニ送付シ、
圖書整理	圖書整理班、要ニ時ハ所轄長ニ先任者ハ所屬人員 ノ指定ニ在籍地方後員ヨリ圖書整理班ニ送付シ、	此、際ハ執務場所ニ關係氏名、總務局長人ト局長在籍 地方後員ヨリ圖書整理班ニ通知シ、

(樣式添)



NOTE BOOK (歴史 5) 抜粋

自昭和十七年八月二十三日
至 九月十七日

394
昭和22年4月

歴史通に第五冊目之書に事に関する之は概の1-17に於る 概は之に書上に於て詳述せり
遠慮せしむるに未だ 21402が20)1-17の特長に於て思ひし。 17.8.23

日	月	火	水	木	金	土	日
23	9	月					
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

1945
 11月
 23日

大船1合同入 經合同 旭東
 2000分載 E160° S30° 向? 1200 後. 旭東
 9時 7分. 54715 - 煤油命中
 命中 命中
 1200 E160° S20° - 至神谷 115 85 75 翔騰
 66°
 前進部隊・合同入(1D12) 2300 200°
 外南洋部隊・編入(1D12) 9時 9分 向 榮
 9分 前進部隊・合(0400)
 0650入港 0800 船倉檢出 外陸上 1900 駛離 大東・合
 0930 0-17 未發 7分
 1050 3分 出港 13-15分 向? 1321 0-17 4分 未發
 煤油 20分 港入 被燒 7分
 0600 12-15分 入港 0951 0-17 一艘 被燒 18分 被燒 7分

既ニ生糧苗が全然無シ 十八日ニ生魚を食つたナリ 二十一日頃迄南瓜とヒヨウ
 があつたがもう何もない 漬物も後二日しか無シ 梅干、紅生姜も少く種かへてた
 味噌も後二十日位である ビビン A. B. C はやつて居るナリと兵隊の方面を見すと
 身が切られる様だ 一片の青菜がほしい 17. 8. 25.

外南洋部隊ニ輸入ナル サバル向テ聲 235° 288 2300 増入港予定
 糧食後 20日 17. 8. 27

今度ハ相当危険ナリ 明日 0700 増入港予定 4300m 母 ヲツギノ上陸カ
 ラビ母 攻め込カト 前進部隊ニ合シ 陸奥 45.56.25d. 17. 8. 28

期待の サバルニ入港ナリ

